

大阪 あちこち

● 伽羅橋

高石市臨海部埋立地の高砂3丁目に緑豊かな高砂公園があり、公園内に「伽羅橋」という石橋が保存されています。



高砂公園

室町時代に大雄寺（現在の高師浜付近）門前の芦田川に架けられていたという伽羅橋は、紀州街道の橋の一つとして有名でした。「泉州志」という書物に「昔、この橋板沈香なり、ある人これを売って千貫の銭を得た。ゆえに千貫橋という」と記されています。沈香は伽羅とも呼ばれ、熱帯地方だけでとれる貴重な香木で、橋に敷かれていたそうです。

木橋であった伽羅橋は、幕末、慶応元年（1865年）10月に長さ11.1m、幅4.5mの花崗岩の石橋



伽羅橋

に架け替えられました。なぜ幕末の混乱した時代に、多額の費用がかかる石橋の建設が行われたのでしょうか。

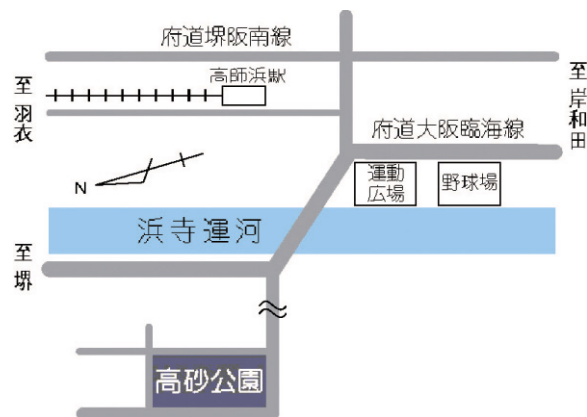
嘉永6年（1853年）、ペリー提督率いるアメリカ軍艦4隻が浦賀へ来航し、翌嘉永7年9月には、大阪湾にも開国を要求するロシア国の軍艦ディアナ号が現れ、天保山沖に停泊しました。大阪湾に沿っていた紀州街道は、堺奉行所・各藩が動員した武士・役人が海岸を警備し、大騒ぎとなりました。今までの木橋では、交通量の増加と大砲・兵員の移動に対応できなくなり、石橋に架け替えられたのです。

開国後、幕府領であった高石では、小高石の王子川にあった「小高石橋」も石橋に架け替えられました。こちらは、現在は姿を消して、小高石橋標柱が残っています。

伽羅橋は、昭和63年の芦田川改修工事により、高砂公園に移転され、現在もそのままの形で保存されています。そして、本年3月、文化庁より登録文化財として認定されました。

幕末の混乱した時代に、地域の交通整備に努力した人々の姿を示す貴重な文化財です。

- 高砂公園へは、
府道大阪臨海線から高砂方面へ 約2km
無料駐車場 有



▼お問い合わせ先▼

高石市郷土資料室

TEL 072-263-1090